

介護系インフルエンサー“はたつん介護士”さんが、音楽健康福祉士になりました。

昨年7月の「虹のうた」に掲載し大好評だった音楽健康福祉士資格を取った介護系インフルエンサー「はたつん介護士」さんインタビューの後編です。今回は彼女がどうしてユーチューバーになったのか、ユーチューブ活動を通じて介護の世界にどのような貢献をしたいのか、将来の夢は何なのかなどをお伺いしています。

②「はたつん介護士」のユーチューブ活動について

——ユーチューバーとして大変有名な“はたつん”さんですが、ユーチューブのお話を伺う前にどうして介護福祉士になられたのか教えてください。

（はたつん） 元々学生時代音楽活動をさせて頂いてメジャーデビューしたい、音楽活動を続けたいと思った時に働かないといけない。その時に近所にたまたまデイサービスがあり、田島君も介護を始めるということで私もやってみようと思って生活のために始めました。

（田島） 音楽学校で彼女と一緒に大学は彼（曾根田君）と一緒にという繋がりです。その時はアルバイトするにしても普通の経験よりもやった事のない経験、“人の人生に触れるような仕事をした方が、詩を書いたりするのでもいいのではないか”と考えていたんだと思います。



（写真左から曾根田さん、はたつんさん、田島さん）

——一般的に若い方の間でも“介護は大変だ”という意識があると思いますが、そういうところに抵抗は無かったですか。

（はたつん） やはり最初は、抵抗だらけでしたね。“向いてないな”と思ったり、周りの子はまだ大学生だったのでサークルで楽しそうだなと思ったりとか、イメージ通り仕事の内容は、派手では無かったです。そういうギャップは、ありましたね。

——そこから「介護福祉士」の資格を取って本格的にやろうと決めた“転機”みたいなものは、あったんですか。

（はたつん） それこそ、音楽レクリエーションをして自分のやった事を喜んで頂ける。ご利用者様だけでなくご利用者様のご家族だったり、一緒に働いている職員であったり、皆が笑顔になった瞬間が、あったんですね。“もっと学びたいな”、“学べば学ぶほど面白いな”とそこで思っただけで「ヘルパー2級」を取らせて頂いて「介護福祉士」をめざしました。



——介護の仕事に本格的に取り組むきっかけは、分かりましたがなぜユーチューバーになったのですか。

（はたつん） 元々は「チキンスープ」（田島さん、曾根田さんで行っている音楽バンド名）というバンドの音楽活動をもっと知って欲しくてライブ、そしてユーチューブ活動を始めました。ユーチューブも音楽だけでなくマルチに美容系だったり、メイクをしたり、激辛を食べたり色々させて頂いていた時に自分がやっている介護をTikTokで“あるある”にして投稿させて頂いたら、100万回くらい再生して頂いてコメント欄とかを見させて頂くと凄いな反響が…。 “共感して頂いているな”、“応援してください”と頂いてるな”というのを感じました。たった1つの小さな投稿だったのに沢山の方が、見つけて下さって本当に感謝をしているんですね。そこからユーチューバーでも介護の発信をさせて頂こうと思って今に至るという感じです。

——“はたつん”さんは、“介護職のサポーター”として“介護は、最高にカッコイイ仕事、誇りをもって仕事をして頂くために頑張る”…そういったことを一番訴えたいという事ですか。

（はたつん） そうですね。私は“デイサービス”の経験が殆どなので介護といっても“特養”とか“老健”、“訪問介護”とか色々あるじゃないですか。“認知症”や“独居”、“看取り”とか色々な場面が、あると思うんですね。そういった中で私自身もまだまだ勉強するところが、沢山あると感じる日々なので実際に現場に行ったり、イベントに参加したり、もっとこういう情報があったよということを共有できる場にもしたいですね。

（田島） 一番本人が主張しているのは、“ご利用者さんのために”。現場の職員さんそれぞれは、皆そう思っていると思いますがそれができるようになるためには介護職の皆さんに対して“余裕”をもってメンタルな部分やフィジカルな部分…それって僕らが何かして変わるものではないですが、メンタルな部分は、少しバックアップすることによって職員の皆様の“心のよりどころ”にしてもらってそこからご利用者様のケアを…ということを考えている訳です。

介護の仕事の“楽しさ”とか“やりがい”だけでなく“つらい”事もあるのを共有できる仲間、輪を広げてゆくことが今後とても大切なのかなと思っています。“コミュニティ”というか“自分の居場所”。自分の言いたいこと



を言えなかったりとか、思っていることを聞いてもらえなかったり、言ったら嫌われちゃうんじゃないかと思っ

て言えなかったりする自分の本音を書ける場所。実際私たちが配信で楽しそうだから介護を始めてみましたというような声も頂いて最近、ちょっとずつ介護職のいい魅力を届けられたらなと思っています。“実際にやってみました”とか“超伝説です”、“やっぱり介護職に戻ってきました”そういう声を頂くと“おかえり”と思いますね。

——“自分の居場所”作りに手応えを感じられているようですが、今後はどういう風にユーチューブ活動をやってゆかれていますか。

（はたつん） 夢は、変わらず一番は、“バンドの音楽活動やユーチューブ活動全部を通して元気を届けたい。日々勇気を届けたい”というのがテーマなんです。全員が、介護の仕事をしているので、だからこそ介護系ユーチューバーとして“動画と音楽の融合”を届けたいなと思っているし、関わるすべての人を武道館に呼びたい。介護職が、武道館に立ったら“メチャカッコイイ”と思うし…。あとはご利用者様との約束を果たしたい。私は、音楽のレクリエーションを通して「私は絶対紅白歌合戦に出るからね」と色々な人に言って「あなたが紅白に出るまで私長生きするから頑張るね」と言って頂き、何人もの人と指切りをしてきました。しかし現実には、何人もの人との約束を果たせないまま悲しいお別れをしてきたのでいつかの約束を果たしたいなと思っています。

③ 介護における音楽の価値について

——最後に音楽が、もっと介護に役立てると思うことがあったら教えてください。

（はたつん） 大好きな音楽を通して皆を元気にしたいと思って音楽活動を続けてゆきたいと同時に介護の現場でも楽しんでもらいたいと思ってレクリエーションに取り組んできました。音楽は“聴く”、“声に出して歌う”、“リズムをとって体を動かす”、“思い出す”、“考える”、“泣く・笑う”など五感と感情を使います。音を楽しむのは老若男女、障害の有無と関係なくすべての人の共通の楽しみであって音楽を通して居場所ができて自分に自信がついて笑顔が増えてゆく、そういう力があると私は思います。

介護においてもどのような人にもどのような音楽が合うのか、使って良いのかを考えて参加してもらって楽しんでもらうことで沢山の効果が、期待できるのだと思います。

——本日は、長時間貴重なお話を聞かせて頂きありがとうございました。今後も介護職の皆さんをサポートすると共にご利用者様を楽しませて頂きたいと思っております、また武道館コンサートや紅白歌合戦に出場される夢が、叶うことを祈っています。

【“はたつん介護士”プロフィール】

プロの音楽家をめざして友人とバンドを結成し、生活のために介護の仕事も始めた。バンドの知名度を上げるために投稿したTikTokの“介護あるある”動画が、バズって介護系インフルエンサーに。介護と音楽の二刀流で介護職の皆さんをサポートし、音楽レクリエーションでご利用者様の健康と幸せづくりに貢献している。